

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2772403099		
法人名	社会福祉法人 みすず福祉会		
事業所名	しらかばグループホーム		
所在地	大阪府枚方市出屋敷西町2丁目5番1号		
自己評価作成日	平成 30年 5月 10日	評価結果市町村受理日	平成 30年 6月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JirgosoCd=2772403099-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JirgosoCd=2772403099-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 6月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人が運営するグループホームであり、医療連携で常勤の医師と看護師が、毎日訪問する事で利用者の健康管理をしています。  
当法人の研修センターで、喀痰吸引研修や実務者研修を受ける事ができます。  
ご利用者だけの外出は困難なため、中庭を利用したレクリエーションや、ご家族の交流の場としてバーベキューなどを催しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

工場街の一角にある開設13年目の2ユニットのホームです。隣接する同法人の特養や障がい者施設以外に民家はありませんが、特養とホームの建物の間には広々とした中庭があり、季節の木々や花々、畑にはサツマイモ、トウモロコシ、玉ねぎ、イチゴ等が植えられ緑いっぱいの風景は利用者の楽しみとなっています。垣根の向かいには近隣の農家の方の畑があり、季節の野菜をもらうなど交流も進んでいます。家族会の折にバーベキューをしたり、おやつを食べたりもして憩いの場となっています。利用者は重度化が進んでいますが、医療連携により主治医による毎日の健康確認が行われ、24時間体制も整っている等、職員・利用者・家族の安心につながる支援を行っています。計画作成担当者は、「タクトイルケア」(優しく触れて接する緩和ケアの手法)を取り入れ、利用者の不安を取り除くケアに努めています。管理者は風通しが良く話しやすい職場環境に努め、意見や提案には即対応をするなどしています。地域になくはならないホームとして期待されます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員とわかりやすい理念を新しく作りました。家族様やお友達が気軽に立ち寄れる事を念頭におきました。「個々の尊厳を大切にしながら、住み慣れた地域で心穏やかに安心して生活できるホームを目指します。」	管理者や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。管理者は職員と話し合い、さらなるサービス向上のためホームの理念を見直しました。「個々の尊厳を大切にしながら、住み慣れた地域で心穏やかに安心して生活できるホームを目指します」を新しい理念として、ホーム内に掲示しています。管理者・職員は理念達成に向け、日々介護実践に活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設近辺が道路沿いにあり住宅がないため日常的な交流はできていませんが、特養合同の地域交流祭で利用者様のご家族や地域の住民の方、又日頃お世話になっている業者様など幅広く声を掛けて開催しています。	ホームは住宅等から離れた環境にありますが、併設特養の施設長が隣接している畑の農家の人や地域ボランティアの方々に向けて協力依頼を募るなどして、地域住民との交流を進めています。農家の方からは季節の野菜をもらったり、歌、ギター、踊り、マジック等ボランティアと交流することは、利用者の楽しみとなっています。5月には特養と合同で利用者・家族・地域住民・日頃関わっている業者との交流を目的として「地域交流祭」を開催しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域包括との交流の中で、事業所の実践経験を、地域の高齢者に積極的に活かせるよう取り組みたいと思っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開き、月ごとの活動報告を行い、会議で意見をとり入れることでサービスの向上に生かしています。	ホームでは、運営推進会議規約を作成し、2か月に1回開催しています。参加者は、家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、ホーム職員です。会議では、利用者状況・活動内容・事故報告・ホームよりのお知らせ等の報告を詳細に行い、参加者との質疑応答及び意見交換を通じてサービスの質の向上・確保に活かしています。運営推進会議の議事録は、職員に回覧し、内容の共有化を図っています。管理者は、参加者の欠席が多くなっているため、会議に参加しやすいように時間変更を行う等工夫していますが、今後必要に応じて地域密着型サービスの知見者等の参加も検討していく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>各種変更届けなど疑問な点や、少しでもわからない事があれば、相談や指導して頂いています。</p>	<p>市の担当課とはいつでも相談できる関係にあります。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議において報告、相談をしています。管理者は、枚方市グループホーム連絡協議会に参加して情報交換等を行い、連携を図っています。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については隣接している特養施設の内部研修に参加し、共有認識を図っています。直接道路に面していない為、玄関の施錠はしていません。</p>	<p>身体拘束をしないケアに取り組み、職員研修年間計画を立てて職員が参加しやすい仕組みを作っています。玄関は施錠せず自動ドアになっています。前回外部評価受審時までには開錠ボタンを利用者の目線より上部につけていましたが、現在では目線の位置に変更しました。利用者はフロア内でユニット間を自由に移動ができて、ホーム前の庭にもいつでも自由に出入りが可能です。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止については隣接している特養施設の内部研修に参加し、共有認識を図っています。日々、虐待の事実が見過ごされることのないよう入浴時などに身体チェックをしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年に、市民後見人養成講座の施設実習の受け入れをした事で身近に感じる事ができました。管理者が学ぶことで、職員にも周知できるように努めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時の契約及び解約は、利用者様、家族様に十分に時間を取って理解して頂き、了承を得ています。その都度、疑問があれば対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や、家族会、法人の行事などでご家族の思いや苦情を聞く時間を設けております。出来るだけ、ご家族の思いを反映していけるよう、真摯に対応しています。</p>	<p>家族の面会時には職員から積極的に声かけをして、利用者の日頃の様子や連絡事項を伝えています。玄関には意見箱を設けていますが、家族とは、苦情や要望を職員に直接伝えてもらい、話し合える関係にあります。2か月に1回「しらかばグループホーム便り」を家族に配布してグループホーム全体の様子や連絡事項を写真入りで報告し、その他の月は個別に利用者の状況報告、その他連絡事項等を写真と共に送っています。面会回数の少ない家族にはメールや写真で利用者の様子を知らせて喜ばれています。家族会は年2回開催され、利用者と共に食事会を行い、多くの家族が参加して活発な意見交換を行っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>グループホーム内で、ご利用者に関する事以外で職員の意見を聞く時間はなかなか難しくなっています。                      ユニット会議などで、時間がある時は、話す時間を設けています。</p>	<p>管理者はユニット会議を開催し、カンファレンスや利用者の状況、業務関係の課題や改善方法について検討してサービスの向上に努めています。会議で職員は自由に意見を出し合え、職員が提案した事項はできる限り臨機応変に対応しています。職員研修も年間計画を立ててきめ細やかに実施し、計画以外にもサービスマナーセミナー等を開き「ご家族への話し方、ご利用者様への話し方、説明力の向上」等も学んでいます。管理者は日常的に職員とのさり気ない会話の中で意見、要望を聞き取り、職員とは何でも話しやすい関係にあります。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人として人事評価を設けており、個人の目標項目で向上心も確認できます。特記事項に、リーダー・管理者とで評価を記入し、特養施設長と面談をすることで個々の努力を給与に反映できるように努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内の施設研修では、外部講師による専門的な講義がありました。 職員のモチベーションアップや介護倫理などの研修に参加し、またフィードバックする事で職員の向上心につながるよう取り組んでいます。		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	枚方市グループホーム連絡協議会に参加する事で知識を得ることが多く、これからも積極的に参加しコミュニケーションをとっていきます。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	ご利用者の生活空間と事務所が近く、扉も開け放たれているため、事務所内におやつを保存しており、お菓子や飲み物を食べて頂きながら、楽しく話をする場を設けています。		
16		<p><b>○初期に築く家族等との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	入居当初はご家族もご利用者も不安であるため、必ずご利用者の様子を連絡させて頂いています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前、契約時に、ケアマネ・管理者・診療所の先生を含めた面談の時間を取っており、本人やご家族の思いをしっかりと聞く事で、必要なサービスを支援できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と一緒に暮らせない状況にあるご利用者にとって、ここが安心して暮らせる場所として同じ目線で関係を築く心がけをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会も多く、その都度ご利用者の要望や希望を話し合う事で、共に支えて行く関係を築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b>                      本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居後もご家族には定期的な面会をお願いしています。                      外出や外泊なども、送迎を積極的にお手伝いし、ご家族や馴染みの人との交流に努めています。</p>	<p>家族と先祖の墓参りに行く利用者や、孫の結婚式に出席する利用者もあります。結婚式に参加する前の利用者には体調の不安もありましたが、参加後はとても元気で表情が明るくなりました。また、以前住んでいた団地の隣人たちがホームを訪問したり、利用者が団地を訪問して宿泊する等、楽しい時を過ごしている利用者もいます。ホームでは、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係継続の支援をしています。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b>                      利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士が交流しやすい居間において、馴染みの関係が作れるように支援しています。両フロアーが続いているため、行事やレクリエーションはみんなで集まって楽しんで頂いています。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取り組み</b>                      サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>施設周辺に住んでいる方が多く、退居後も家族様が遊びに来られる事もあり、これからも相談等誠実な対応に努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が認知症の症状が強くなり、精神的に不穏になった時など事務所で話を傾聴し、アロマオイルで手をマッサージすることで穏やかになって頂けます。	入居時に、利用者一人ひとりの思い、希望等を「入居前アンケート」等で聞き取って記録しています。入居後は利用者の思いや意向を把握できた時は申し送りノートに記入し、職員間で共有しています。利用者の思いをよりよく理解できる様に、職員は優しく触れることで利用者の不安を和らげ、表情豊かに話を進めていく手法である「タクティールケア」を学び日々の支援に取り入れています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初は特に、利用者の生活歴やなじみの暮らしを把握するために、面会の折りに在宅時の様子を聞くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の1日の暮らしに添って本人の生活の中から出来る力を把握し、職員全体がチームとして状況を共有できるように話し合いを持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b>                      本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画に基づいて、職員は毎日援助項目ごとに実施状況をモニタリングしています。特にケアプラン更新時にはユニット会議で話し合ったり、家族様と話し合う事で、現状に即した介護計画を作成しています。</p>	<p>介護計画は原則6か月に1回、定期的に見直しを行っています。援助項目ごとのモニタリングを毎日実施しています。ケースカンファレンスは毎月実施して介護計画の見直しに繋げています。必要時には都度見直しを行っています。サービス担当者会議には利用者・家族の参加もあります。計画作成担当者は、利用者・家族とのコミュニケーションをしっかりと計画に反映させていくことを心がけています。</p>	
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b>                      日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画の更新時や見直しは、毎日チェックする実施記録や個人日誌などを読んで情報を共有し、日々のケアの実践に活かしています。</p>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b>                      本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>当法人の特養が隣接しているため、将来的なご家族の要望への対応も可能です。日々特養と合同の行事や、デイサービスの催し物にご利用者も参加されています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の特養との協力体制の他、運営推進会議での地域包括支援センターや民生委員との交流機会の確保により、安全な暮らしに向けた支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接しているかかりつけの診療所と医療連携をとっており、常勤医師による毎日の訪問診療で日々の健康チェックを行っています。協力医療機関として訪問歯科や訪問クリニック(精神科)の利用もして頂いています。	ホームでは、隣接する特養に併設された診療所(協力医療機関)をかかりつけ医としています。利用者は、かかりつけ医より日々健康状態のチェックを受けています。夜間や緊急時への24時間オンコール体制が整っており、利用者・家族、職員の安心に繋がっています。毎日主治医の訪問があり、職員は主治医との関係を密にし、指示を得ています。必要な利用者には訪問歯科や訪問クリニック(精神科)の協力機関も得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接診療所の看護師との24時間医療連携をとっており、夜間の緊急時の連絡で指示や相談を受けていることで、医療の支援に繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者の入退院の際は病院の地域連携室に相談し、情報交換しながら、スムーズに早期退院が実現できるよう積極的に支援を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制がとれていることから、重度化や終末期に向けた指針については入居前の契約で同意を得ています。各段階ごとの、看取りまでの同意書の確認も、ご利用者の体調にあわせてその都度、ご家族と話し合う機会を設けています。	「しらかばグループホームにおける看取り介護に関する指針」について入居時に説明を行い、利用者、家族の同意を得ています。利用者が重度化した場合、管理者は、家族、医師、職員などと話し合っ方針を決めています。利用者・家族の希望に沿ってできる限りの支援を行っています。職員は看取りの経験もあり、管理者が「ターミナルケア研修」を行ったり、マニュアルを配付して支援につなげています。看取り後の振り返りを行い、ケアの向上にも活かしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時についての内部研修が年1回あり、積極的に参加しフィードバックするようにしています。喀痰吸引研修の学校も開講していることで、職員の資格者も増えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時は隣接している特養の協力体制を築いており、年2回の日中・夜間設定の避難訓練を実施しています。消防署より、水消火器を借り、実践さながらの訓練をしています。	年2回夜間想定を含めて、初期消火、避難誘導、消火器の使い方の避難訓練を実施しています。備蓄は水分や米等を1階の倉庫に保管しています。災害発生時マニュアルはありますが、今後想定される「洪水、土砂災害の避難確保計画」について、市への提出が義務づけられており、現在作成中です。	隣接する特養と連携し、同日に避難訓練を実施していますが、消防署の立会いがない状況となっています。2回の避難訓練の内1回は消防署に立会いと指導の協力を要請することが望まれます。
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職者に対し、新人教育として介護や接遇マニュアルなどの講習をしています。ご利用者、ご家族への対応、又言葉使いなど利用者の尊厳を守ることが出来るよう努めています。	職員は法人研修や施設内・外部研修において「プライバシーとコンプライアンス」「身体拘束廃止・虐待防止」「接遇・サービスマナー」等に関する研修を受け、意識の向上に努めています。職員の言葉かけは優しく丁寧で、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねないよう配慮した態度で支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の状態に応じて、コミュニケーションの方法を変えながら、意思の疎通を図り、日常生活の様々な場面において、利用者様の希望の表出が可能となるように働きかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の暮らしの中で、排泄や食事などどうしても、職員本位、又は施設本位で介護のペースを合わせてしまいがちです。その中で、グループホームらしい、ゆったりとした日常生活を送って頂けるよう支援しています。</p>		
39		<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>個人の服の好みもあるので、好きな服を着て頂いています。月1回の訪問理美容もご利用者や家族の希望にあわせ利用して頂いています。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b>                      食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>昨年10月より、食事体制を特養と同じ業者に業務委託する事になり、配膳をご利用者に手伝って頂く機会が少なくなりました。畑の野菜を利用して一緒に作れる機会を設けたいと考えています。</p>	<p>食事は、隣接する特養の厨房から3食届きます。おやつも手作りのプリンやゼリーが届きます。お米はホームで炊いています。職員は、利用者の体調やタイミングを見計らい、お盆拭き等の出来ることを利用者と一緒にしています。気候が良い日には、ホームの中庭でおやつを食べたりバーベキューを楽しんでいます。年2回の家族会でも家族と一緒に中庭でバーベキュー等をしています。広々とした中庭には、緑の芝生や季節の花々、トウモロコシやサツマイモ、玉ねぎ等の野菜を植えています。野菜はサラダにしたりして食卓を彩っています。利用者は重度化していますが、職員は利用者が安全で安心して食事をとることができ、より楽しみなものになるよう支援しています。</p>	
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>                      食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>1日の水分量や食事量を一目でわかるよう記録を付けています。熱発者や水分の取りにくいご利用者には、スポーツドリンクをゼリー状にしたものを積極的に摂取して頂くよう支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>1人1人の口腔ケアが違うため、それに応じたケアを支援しています。ご利用者の内数名の方は訪問歯科を利用され、口腔衛生指導を受けています。職員も普段の口腔ケアで実践するようにしています。</p>		
43	16	<p><b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>普段ベッド上でパット交換の方も、座位がとれるご利用者は、日中出来るだけトイレでの排泄を促しています。パットやおむつの使用も利用料金の負担となるため、出来るだけ汚染の無いよう心がけています。</p>	<p>職員は「排泄表」にもとづき、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、個別に声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。重度化に伴い、紙オムツ使用の利用者が増えてきていますが、立位のできる方にはトイレでの排泄を支援しています。「排便チェック表」にも記録をして、看護師の訪問時に個別の対応の指示を受けています。</p>	
44		<p><b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>座薬や浣腸に至る前に、冷たい乳飲料を飲んで頂いています。独歩が可能なご利用者には、職員も一緒にフロアや中庭を散歩するようにこころ掛けています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各ご利用者の状態を考えて、曜日を設定していますが、体調が悪かったり、拒否がある時など臨機応変にいつでも、入浴できるように準備しています。	浴室は2つのユニットで合わせて使用しています。明るく広々としており、1つは大きめの浴槽が設えてあります。利用者は原則週3回入浴しています。希望で音楽を流しながら入浴をする利用者もいます。その方のペースに合わせてゆっくりと入浴できるようになっています。入浴剤などを取り入れながら、歌を歌ったり職員と会話をして利用者が楽しめるよう入浴支援を行っています。また、利用者の重度化によって職員二人体制での入浴としたり、体調によっては清拭を行う等、きめ細かな支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご家族と話し合い、ベッドや家具の位置を変えることで、安心して気持ちよく眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は特定の調剤薬局にお願いしており、細かい薬剤効果効果など相談したり、助言を頂いています。訪問の精神科の看護師やドクターにはご利用者の状態の変化を細かに伝えご利用者に負担のないよう、その都度、薬の調合の対応をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ・お盆拭きなど、職員と一緒に日課としてお手伝いして頂いています。中庭でレクレーションをしたり、隣接のデイの催し物に参加する事で気分転換をして頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くに、自然の公園があり、外出しやすい季節になると、行事として季節にあった花を見学に行きます。施設の買い物もできるだけご利用者と一緒に行けるよう支援しています。	気候が良くなってきたら、外出の機会を増やしています。利用者は近所のコンビニにアイスクリームを買いに行ったり、バス停までの往復の散歩を楽しむ等、職員と共に出かけています。お好み焼き、焼き肉などの外食にも出かけています。中庭で季節の花を眺めながら外気浴もしています。気候の良い時期は特養の車を借りて花見に出かけたり、近くの公園に出かけて楽しみます。重度の利用者も車椅子を使用して出かける機会を積極的に作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのコンビニに買い物に行ったり、グループホーム内の自動販売機でジュースを買う時は、職員が手伝いながら、ご利用者自身で支払って頂くようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご利用者の中には、携帯を所持されている方がおり、ご家族や友人と楽しく会話されています。手紙のやり取りもあります。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアには天窓があり、採光には配慮しています。中庭などで咲いた花などを常に洗面台や玄関に飾り、季節感を楽しんで頂いています。トイレは車いす使用など用途に合わせて計6か所あります。	ホームには表通りの玄関を入ると緑いっぱいの中庭があり、中庭に沿って平屋建ての2ユニットの造りとなっています。ホームの広い入口を入ると、リビングダイニングには季節を感じられる飾りや外出時の写真等が飾られ、温かみのある空間づくりがなされています。リビングは明るく、温度は適温に保たれています。リビングや壁には利用者の手芸作品や職員と一緒に作成した貼り絵が飾られ、季節感やぬくもりを演出しています。食堂テーブルやソファコーナーでは、利用者がテレビを見たり、音楽を聞いたり、洗濯物をたたんだり、それぞれにゆったりと過ごしています。中庭にはテラスや広い庭園があり、季節の花々や家庭菜園が設けられています。菜園では野菜などを作っており、季節の野菜で食卓に自然を感じられる工夫もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物内部は食堂兼居間という構造であり、居間のスペースはあまり広くはありませんが少人数でリラックスして過ごせるように心がけています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者によっては、テレビやソファなど持ち込まれ、ご家族が面会の際に一緒にくつろいでいただけます。	居室入口には職員が作った表札を飾るなど自室がわかるようになっています。ベッド、エアコン、カーテンはホームが用意しています。入居時には、タンス、テレビ、時計、家族の写真、加湿器、人形等それぞれの思い出の物を持ち込んで、自分で好きなように配置しています。手作りの作品や絵、行事の写真等を飾ったりして、職員は居心地良く過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーのため、車いすのご利用者にも無理なくフロアを移動していただけます。またトイレの場所や居室のタンスに表示等のラベルを貼る事で、自立した生活が送れるように工夫しています。		